平成３０年度　いみず学生アイディアコンテスト実施要領

１　目的

　　学生の意見を生かした市政を推進するため、学生からの提案を募集する。

　　学生が市に対し提案することにより、地域が抱える課題について理解を深め、自分自身の研究、就業、人生設計について考える機会とする。

２　テーマ

　（１）射水市からの地域課題　別紙資料１のとおり

　（２）フリーテーマ（自ら射水市について調査した内容に基づいた課題）

※いずれの課題を選択された場合でも、市役所の担当部局から必要に応じて資料など情報提供することが可能です。

３　応募資格

・富山県内の大学、短期大学、高等専門学校、専門学校に在籍する学生

※グループ（ゼミ、サークル等）、個人どちらでも可

４　応募方法

　（１）応募受付期間

　　　平成３０年１１月５日（月）～１２月７日（金）

　（２）提出書類

　　　別紙様式第１号、第２号及びその他参考となる資料

　　　郵送、電子メールどちらでも可（データ容量が大きい場合は郵送での提出）

　　　ただし、様式第１号及び第２号については、データを提出する。

　（３）応募書類の提出、問い合わせ先

　　　射水市企画管理部政策推進課

　　　〒９３９-０２９４

　　　　射水市新開発４１０番地１

　　　　電話０７６６－５１－６６１２

　　　　FAX０７６６－５１－６６４６

　　　　メールseisaku@city.imizu.lg.jp

５　提案審査

　（１）審査会

　　　提案内容について審査会（プレゼンテーション）を公開で実施する。

　　　日時：平成３１年１月中旬（予定）

　　　場所： 射水市役所（予定）

　　　・審査会は公開で実施する。

　　　・発表時間は１５分とする。

　　　・優秀な提案について表彰する。

　　　・事前に書類審査を行う。

　　　・審査会プログラムに発表者のグループ名及び氏名を掲載し、公表する。

　（２）審査基準

　　　①独創性があるか

　　　②本市の現状分析が的確になされているか

　　　③提案内容について

　　　　・有効性

　　　　・実現性

　　　　・費用対効果

　　　　を踏まえたものになっているか。

６　提案の活用

　　優秀な提案は次年度以降の実施に向けて検討する。

７　その他

　　提案内容、審査会などは原則として、市のホームページなどで公開する。

（別紙資料１）

　２（１）射水市からの地域課題

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| № | 課　題 | 課題の概要 | 問合せ先 |
| 1 | 学生が参画しやすいまちづくりについて | 射水市では、学生が参画するまちづくりを推進しています。学生の意見を市政に反映するためにはどのようにすればよいか、提案してください。 | 政策推進課企画調整係 |
| 2 | 稼ぐ公共インフラのアイディアについて | 少子高齢化を伴う人口減少社会、また厳しさを増す財政状況を踏まえ、公共施設等を税収に合わせた維持可能な規模に圧縮する必要があります。その一方で、民間事業者と連携するなどした「稼ぐ公共インフラ」の考え方も必要であるため、地方都市においても実現可能な魅力あるこれからの公共施設等のあり方について提案してください。 | 人事課行革推進班 |
| 3 | ＵＩＪターンの促進策について | 射水市の人口動態を見ると、若い世代の首都圏等への転出が多く、人口減少の大きな要因となっています。社会移動をプラスに転換するには、こうした若い世代のUターンと、市内に居住する県外学生の定住化の取組が極めて重要になると考えています。「射水に戻りたい、住み続けたい」と思われるような方策を提案してください。 | 未来創造課地方創生係 |
| 4 | 魅力的な婚活イベントについて | 射水市では、結婚を望む市民に出会いの場を提供するため、定期的に婚活パーティーを開催していますが、毎回、女性の応募が少なく大変苦慮しています。女性の参加意欲が高まるような、魅力的な婚活イベントを提案してください。 | 未来創造課地方創生係 |
| 5 | 自治体ポイントの活用について | 　射水市では、総務省が構築したシステムを利用し、自治体ポイントによるオンラインショッピングを開始しました。民間企業で未使用となっているポイントを自治体ポイントに集約し、射水市でそのポイントを使ってもらうことにより地域の消費拡大を図るものです。この自治体ポイントの更なる活用方法について提案してください。 | 総務課情報管理係 |
| 6 | 若者の選挙投票率の向上について | 　若者の投票率は低い傾向にあり、期日前投票など生活の多様化にあわせて様々な制度が導入され、利便性の向上などに取り組んで来ました。学生の皆さんの視点で一般有権者、特に若者が投票に行こうと思えるような方策を提案してください。 | 選挙管理委員会（総務課総務・法規係） |
| 7 | 広告料収入の確保について | 新たな財源を確保するため、有料広告の媒体及び掲載事業者の拡充方法を提案してください。 | 財政課 |
| 8 | 大島絵本館の魅力を多くの人に体感してもらうために | 射水市大島絵本館は、絵本文化の振興を目的に平成6年に開館した施設であり、（１）Feel（感じる）見て、感じて、豊かな心へ（２）Make（つくる）見て、つくって、新たな発見へ（３）Tell（伝える）　心から心へ、そして世界へをコンセプトに事業を展開しています。近年は、利用者数が減少傾向にあり、また、絵本は、小さい子ども向けというイメージから利用者に偏りがあります。そこで、多くの世代に訪れてもらうような事業や体験プログラムを提案してください。（施設を訪問していただき、現状を把握した上での提案をお願いします。） | 地域振興・文化課 |
| 9 | 改修・改築後の小杉社会福祉会館の面白い利用方法について | 地域福祉の拠点、交流機能の集約・充実に向けた改修・改築工事を実施する小杉社会福祉会館について、完成後の施設の斬新な利用方法、周辺のにぎわい創出につながるような利用方法について提案してください。 | 地域福祉課 |
| 10 | 福祉・介護職のイメージアップについて | 福祉・介護人材の確保が喫緊の課題となっており、課題解決には、福祉・介護職のイメージアップが必要と考えています。学生の視点から、福祉・介護職の魅力を若者や親に伝えていく方策を提案してください。 | 地域福祉課 |
| 11 | 障がい者への理解について | 障がい者はコミュニケーションがとりにくいため、地域行事への参加が難しいと言われていますが、地域の理解により社会参加が可能であると考えます。障害への理解促進や地域とのふれあいに繋がるような提案をお願いします。 | 社会福祉課 |
| 12 | 商店街の活性化について | 商店街は、かつて「地域の顔」として賑わいをみせていましたが、後継者不足や郊外型店舗等の影響により、商店の廃業が相次ぎ、今ではかつての賑わいが失われつつあります。商店街に依存してきた地域の高齢者等の交通弱者は、日頃の買い物が困難となるなど、市民生活にも支障をきたしていることから、商店街の活性化は、早急に取り組むべき課題であると考えています。商店街が賑わいを取り戻し、また、地域住民が元気に生活を送れるような取組を提案してください。 | 商工企業立地課商工労政係 |
| 13 | 中小企業振興の在り方について | 射水市の経済は、９９％以上を占める中小企業によって支えられており、その振興策は市の発展を図るうえでも重要な課題となっています。しかし近年は、人口減少や少子高齢化、インターネット取引の増加など、社会的・経済的環境が大きく変化しており、中小企業は、販路確保、人材確保、後継者の確保、設備投資など、様々な面で厳しい状況に置かれています。中小企業振興のためにどのような取組が有効であるか、提案してください。 | 商工企業立地課商工労政係 |
| 14 | 市街地の活性化について | 新湊地区市街地や小杉駅前周辺地域において、賑わい創出（イベント等）により、地域活性化につながるような方策を提案してください。 | 港湾・観光課観光振興係 |
| 15 | 観光周遊コースについて | 射水市には、魅力ある観光資源が多くありますが、宿泊施設が少なく、通過型観光の傾向があります。そこで、少しでも滞在時間を延ばせるよう、若者目線でのテーマやターゲットを明確にした観光周遊コースを提案してください。また、そのＰＲ方法についても併せて提案してください。 | 港湾・観光課観光振興係 |
| 16 | 二次交通について | 平成28・29年度に、小杉駅と射水ベイエリアを結ぶ観光周遊バスの試験運行を実施しましたが、乗車人数が伸び悩み、本格運行に至りませんでした。また、射水市を訪れる観光客のほとんどは車ですが、県外からの誘客を図るには、観光周遊バスという移動手段は必要と考えており、その方策とＰＲ方法について募集します。 | 港湾・観光課観光振興係 |
| 17 | 効果的なノベルティの考案について | 　射水市では、県内外でイベントや物産展に参加しＰＲを行っています。その際に射水市を知ってもらえるきっかけとしてカニの風船やポケットティッシュ等のノベルティを配布していますが、若者の皆さんにも好評いただける、安価で効果のあるノベルティグッズを提案してください。 | 港湾・観光課観光振興係 |
| 18 | 農林水産業への若者の参加について | 近年、国民の食を支える１次産業である、農林水産業を営む人の高齢化が進展しています。若者が農林水産業に対し魅力的なイメージを持ち、多くの若者が参加し今後も農林水産業が持続できるような方策を提案してください。 | 農林水産課農政係 |
| 19 | 都市のスポンジ化について | 全国の都市において、人口減少に伴い、少子高齢化が進行し、今までマーケットが成立した店舗が成り立たなくなることや、高齢世帯が居住していた住居が空き家になるなど、都市の至るところに空き家、空き地などの未利用地が増加することが懸念されています。市内では、昭和３０年代、４０年代にかけて造成された太閤山団地がある。この団地の特徴として、いわゆる団塊の世代の方々が一斉に入居し、一斉に高齢化が進行しており、今は、目に見えては現れていませんが、少子化が確実に進行し、高齢化については市の平均値を上回っています。高齢世帯が一斉にいなくなり、街が空洞化する前に、学生から子育て世帯、お年寄りまでが住み続けることができる街にするには、どのような方策があればよいか提案してください。また、どういった施策があれば、学生が自治会に参加し、地域活動に参画できるか提案してください。 | 都市計画課計画係 |
| 20 | 公園の利活用について | 射水市内には、公園が約300箇所あります。太閤山ランドや歌の森運動公園、大島中央公園など大きな公園は、施設などが充実しており、利用頻度が高くなっています。各自治会にある比較的小さな公園は、主に宅地開発により作られた公園が多く、かつては、子供や親同士などが交流するコミュニティ空間として機能していました。しかし、少子化や塾通いなどで子供が外であまり遊ばなくなり、公園のコミュニティ機能は弱まっています。また、公園に投入する維持管理費も増加する傾向にあり、各自治会にある小さな公園を今後どう利活用すればよいか提案してください。 | 都市計画課整備係 |
| 21 | 「いいみず いみず」の効果的な普及宣伝策について | 射水市水道事業では、射水の水道水のおいしさと安全性をＰＲするため、ボトルドウォーター「いいみず いみず」を製造し、県内主要施設や東京日本橋とやま館で販売しています。今年度のモンドセレクション最高金賞受賞を契機として、認知度を高めたいため、安価に効果的な普及宣伝が図られる方策を提案してください。 | 上下水道業務課 |
| 22 | 下水道のＰＲについて | 射水市では下水道事業に興味を持っていただくため、昨年度よりマンホールカードを発行しています。下水道は私たちの暮らしを支えるライフラインでありますが、普段の生活で目にする機会は少なくまだまだ住民の方々の下水道への関心は薄いように思われます。下水道により関心を持ってもらえるようなＰＲ手法や内容を提案してください。 | 下水道工務課 |
| 23 | 「あったか家族応援プロジェクト事業」の提案について | 本市では、「あったか家族の愛ことば　家族いっしょに　食事・おしゃべり・お手伝い」を合言葉に、「あったか家族」の普及を目指しています。あったか家族を応援する様々な活動が市内に広がるような取組を提案してください。 | 生涯学習・スポーツ課 |
| 24 | 救急車の適正利用について | 救急出動件数は年々増加していますが、出動件数（Ｈ２８年3,030件）の約４割が救急車を必要としないものです。射水市消防は５台の救急車で運用していますが、本当に必要な時に救急車が来ない場合があり、タクシー代わりの救急車の利用をやめてもらうには、どうすればよいか提案してください。 | 消防本部総務課　 |
| 25 | 消防団員の担い手不足解消について | 現在、消防職員は１１４名で、これを補う消防団員の定数は７５７名のうち実員は７２５名です。現在、消防団ＯＢや女性団員、学生団員を含め消防団を維持していますが、社会状況の変化に伴い消防団の担い手が不足しています。（昔は、自営業の人が多数いたが今は会社勤めの人が増えています。）火災や地震等の災害時には、消防団員はとても重要な組織です。今後、消防団に入団してもらうにはどうすればよいか提案してください。 | 消防本部総務課　 |

※各課題についての詳細な資料等は必要に応じて市から提供いたします。